

散歩 ウォッチング



ミツバツチグリ



キジムシロ

桜花の頃は、南からツバメがやってくる季節です。最近ではツバメを見かけることが少なくなりましたが、板橋や練馬でも空を注意深く観察していれば、時々見つけることができます。春のツバメは日照時間の長さを感じて渡りを始め、海上では太陽の方向で自分の位置を把握し、陸上では山河の形を見分けて、古巣へとたどり着きます。最初に着くのはオスで、メスの到着を待って巣作りを始めるのですが、大自然の不思議な力を感じますね。

同様の力を感じるのには、早春に多い黄色い花です。花の色は人の鑑賞のためではなく、繁殖に関わっていることは広く知られています。繁殖のために花の花粉を運んでくれるのは昆虫ですが、その中でも早春に多いのはハチやアブの仲間です。この仲間は単眼で光(明暗と色彩)を受容し、受容する光の波長は人より短波長寄りなので、紫外線を感じる事ができます。私たちにはただ黄色に見える花が、ハチやアブには淡い青色に見えて、目指す蜜の場所がくつきりと目立つように見えるそうです。

今頃咲いている黄色い花といえば、ミツバツチグリとキジムシロですが、両種ともバラ科キジムシロ属で、草丈は15cm前後。花茎の先に径2cm弱の黄色い5弁花を数個つけます。両種の区別は花の下にある葉の形で、ミツバツチグリは名前の通り小葉3枚の三出複葉、キジムシロは小葉5〜7枚の羽状複葉です。よく似た黄花にヘビイチゴがあります。花茎の花は1個だけで、花弁の間に隙間があり、基部の緑色がく片が見えるので区別できます。

桜花を見上げる季節ですが、足元の草花にも自然を感じながら、散歩を続けください。

※ Kacee のホームページでカラー写真をご覧いただけます。